

東北地方北部雪谷川流域においてみられる洪水堆積物の古水文学的意義

Paleohydrological implication of flood deposit in Yukiya River Basin, NE Japan

大丸 裕武 [1]; 村上 亘 [2]

Hiromu Daimaru[1]; Wataru Murakami[2]

[1] 森林総研; [2] 森林総研・水土領域

[1] FFPRI; [2] FFPRI

沓瀬原の支流の出口付近に見られる洪水堆積物は過去の洪水の頻度や規模を復元する上で重要な情報を提供する。わが国では温暖湿潤気候で洪水堆積物が浸食によって失われやすく、洪水堆積物から過去の洪水規模を復元出来た例はきわめて少ない。筆者らは、東北地方北部の雪谷川において、保存状態の良い洪水堆積物を発見し、堆積年代や堆積環境に関する知見を得ることが出来た。洪水堆積物は、約2000年前の年代を示すものが多く、一部の堆積物からは約200年前の年代値が得られた。約2000年前の洪水堆積物の一部は、1999年の洪水堆積物よりも高所にも見られることから、再現期間が約200年と推定される1999年の洪水よりも、大きな流量の洪水によって堆積したと考えられる。